

コムギ赤かび病の発生が平年より多く確認されています！
適期収穫、適正な乾燥調製を徹底しましょう！

1 作物名 麦類(小麦)

2 発生現況

(1) 6月上旬の巡回調査の結果、小麦では発生地点率は平年より高く、発病穂率は平年並であった(図1)。

開花期以降周期的に降雨があり、小麦では今後赤かび病の発病・病勢の進展が予想される。

(2) 定点調査ほ(古川農業試験場)では、小麦での初発は平年よりやや早かった(表1)。

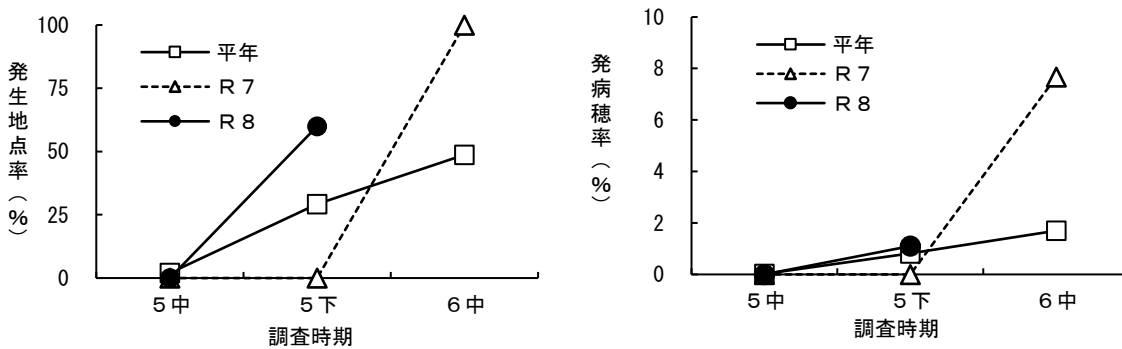


図1 コムギ赤かび病の発生地点率と発病穂率の推移(病害虫防除所)

表1 定点調査ほにおける麦類赤かび病の初発日

麦種	品 種	初発日	
		本年	平年
大麦	シュンライ	5/19	5/17
	ミノムギ	5/23	5/21
	ホワイトファイバー	5/23	-
小麦	シラネコムギ	5/25	5/29
	夏黄金	5/25	5/28

※定点調査ほ: 古川農業試験場

※ホワイトファイバーは令和6年播種より供試のため平年値なし

表2 令和7年播種(令和8年産)麦類作況試験生育状況

麦種	品 種	出穂期(月/日)			開花期(月/日)		
		本年	前年	平年	本年	前年	平年
大麦	シュンライ	4/19	4/21	4/22	4/26	4/28	4/30
	ミノムギ	4/23	4/24	4/26	5/1	5/2	5/3
	ホワイトファイバー	4/21	4/23	-	4/27	4/29	-
小麦	シラネコムギ	4/30	5/2	5/2	5/10	5/14	5/13
	夏黄金	4/30	5/2	5/3	5/8	5/14	5/13

※作況試験ほ: 古川農業試験場、播種日: 令和7年10月22日播種

※平年値は過去7か年中の最高値と最低値を除いた5か年分の平均値

※ホワイトファイバーは令和6年播種より供試のため平年値なし

3 防除のポイント

- (1)「夏黄金」の薬剤防除は3回を基本とし、3回目は2回目の7～10日後に実施する。他の小麦品種でも、赤かび病の発生が目立つ場合は3回目の防除を検討する。
- (2) 本年は開花期以降に降雨があり、赤かび病の発病・病勢進展に好適な気象で経過していることから、刈り遅れのないよう適期収穫を行う(表2)。成熟期の子実水分はおおむね32～45%で、登熟日数は大麦で出穂後約40日～45日、小麦では出穂後約45～50日である。
- (3) ほ場を見回り、発病が多いほ場では収穫時に刈り分けを検討する(登熟後期は発病が見えにくくなるので注意する)。
- (4) 子実の過湿状態での放置は赤かび病菌が増殖する原因となるため、収穫後は速やかに乾燥作業を行う。
- (5) 赤かび病粒の除去には比重選別や粒厚選別が有効であり、併用することがより効果的とされている。
- (6) 被害残渣(麦わらやこぼれ麦等)は早めに耕起し、土壌中にすき込むか、ほ場外へ持ち出し、次作の伝染源密度を低下させる。

～ムギ類赤かび病の農産物検査規格及びかび毒について～

農産物検査規格上、赤かび粒の混入は0.0%以下(1万粒検査した場合4粒以下)と定められており、これを超えると規格外となってしまいます。

また、赤かび病菌は人や家畜に有毒なかび毒であるデオキシニバレノール(DON)やニバレノール(NIV)を産生し、日本では小麦に含まれるDONの基準値が1.0ppmと定められているため、基準値を超えた小麦は食品衛生法上、流通することができません。

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、令和8年6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ② 土壌くん蒸剤を使用した後の適切な管理をしましょう
- ③ 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
- ④ 農薬の保管管理を徹底しましょう



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム